

河芸地域から鈴鹿市南部にかけての丘陵には、古墳時代後期(6・7世紀)から奈良時代に須恵器と呼ばれる土器を焼いた、徳居窯跡群と呼ばれる窯跡があります。徳居窯跡群は、38基の窯跡(消滅したものを含む)が確認されていて、三重県下でも最大規模の須恵器の一大生産地でした。

須恵器は、古墳時代中期(5世紀前半)に朝鮮半島から日本へ伝来し、平安時代ごろまで生産された土器で、窯の中で密閉された状態で焼かれるため、青灰色や灰色をした非常に硬い焼き物です。



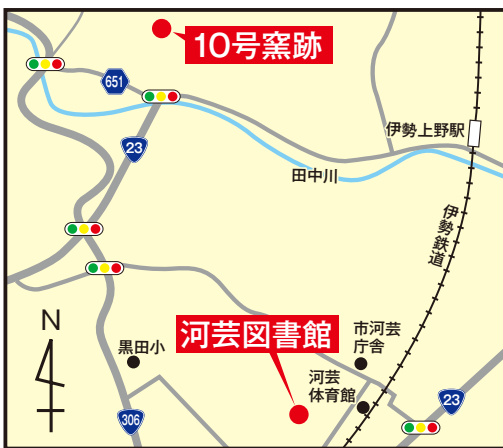
赤く焼き締まった窯跡

昨年、住宅地造成に伴って徳居窯跡群のうち、10号窯跡の発掘調査を行いました。窯跡は、西側に開けた谷の斜面をトンネル状に掘り込んで造られ、窯の長さは7m以上、幅は2.2m、高さは1.3mありました。100度以上の高温で焼かれた窯の周りが真っ赤に焼け締まっていることが確認でき、その生産の様子が明らかにになりました。

この須恵器の生産と深く関わっていると考えられるものに、市指定有形文化財の合口甕棺があります。これは、昭和33年に河芸町三行の丘陵にある畑地から出土した埋葬用の大型の土器で、7世紀ごろのものと考えられています。ドーム型の蓋と砲弾のような形をした身がセットになっていて、棺の蓋は口径57cm、高さ37.2cm、身の部分は口径53cm、高さ74.5cmで、大人一人が入れるほどの大きさです。このほかに付近からは、方筒状土製品と呼ばれる普通の古墳では見られない特殊な須恵器が出土していて、須恵器を製作した工人が深く関わっていると考えられています。

現在、こ

の合口甕棺は、河芸図書館の資料展示室で見ることができ、実際に間近で見ると、このような大きな陶器製の棺を、薄く頑丈に造り上げることができた、当時の技術の高さをうかがい知ることができるよう。



※10号窯跡は、住宅地造成に伴い消滅



合口甕棺

おわび 広報津7月16日号16ページ「歴史散歩110 上野古墳群と家形埴輪」の地図上の市久居庁舎の位置に誤りがありました。正しくは「久居新町3006(ポルタひさい内)」です。おわびして訂正させていただきます。

文・写真▶教委生涯学習課

幸せ結婚 個別お見合い40年の信頼と実績 高い成婚率

広告

お見合い婚活入会受付

地元同士で**100%のご成婚**をめざしてサポートします。
婚活パーティ随時開催中!

みえ出逢いサポートセンター(三重県設置) 出逢い応援団体登録

幸せ結婚 Happy wedding

花時計

津市岩田21-33(百五銀行本店ヨコ)

TEL 059-228-2209 / 090-6807-2209 (別所久美子)

<http://www.hanadokei-mie.com/>

E-mail: hanadokei-1122@docomo.ne.jp

市財政収入の一部に寄与することを目的とし、表紙に広告を掲載しています。なお、掲載している広告内容については津市が保証しているものではありません。

広報津

毎月1日・16日発行

- 編集・発行
津市政策財務部広報課
〒514-8611
西丸之内23-1
☎229-3111
FAX 229-3339
- 印刷
寿印刷工業株式会社